

国語 第1学年 としょかんはどんなところ

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある7月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「読みたい本はどこで見付けられるか」を問い、本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝える。図書館の使い方カードの初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(3)エ	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、いろいろな本があることを知り、関心のある本を選んで読書に親しんでいる。思考・判断・表現では、本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝える。交流や試行の前後を比べ、図書館の使い方カードを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①いろいろな本があることを知り、関心のある本を選んで読書に親しんでいる。〔知識及び技能〕(3)エ	①「読むこと」において、本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝えている。（C(1)カ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝える。 ○考えた理由を交流し、図書館の使い方カードを仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態①は関連する学習の記録も合わせて見る。

本時の案

本時の目標：本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝えることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「読みたい本はどこで見付けられるか」 【めあて】図書館と本に親しむことについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・棚の表示を見ると探す場所が理解できた。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。本棚を順不同に探し続ける姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝える。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「読みたい本はどこで見付けられるか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・棚の表示を見ると探す場所が理解できた。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	棚の表示と表紙を一緒に見て、困ったときの尋ね方を練習する。知識・技能では、いろいろな本があることを知り、関心のある本を選んで読書に親しんでいる。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①本の置き方や借り方を確かめ、読みたい本を探して選んだ理由を伝えている。(C(1)力)(本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 図書館の使い方カードを確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】本は題名や紹介、内容を確認めて選ぶことで、自分の関心や読む目的と結び付く。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。読みたい本はどこで見付けられるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（図書館の使い方カードと実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には図書館と本に親しむことを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に図書館の使い方カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまづきやすい所と手当て

予想する難しさは、本棚を順不同に探し続けることである。棚の表示と表紙を一緒に見て、困ったときの尋ね方を練習する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

図書館の使い方カード

「読みたい本はどこで見付けられるか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。棚の表示と表紙を一緒に見て、困ったときの尋ね方を練習するための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重